

第1問 (20点)

下記の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	小口現金	当座預金	普通預金	売掛金
貸付金	従業員立替金	貯蔵品	仮払消費税	仮払法人税等
買掛金	借入金	社会保険料預り金	仮受消費税	未払消費税
未払法人税等	未払配当金	資本金	利益準備金	繰越利益剰余金
売上	受取手数料	仕入	給料	法定福利費
支払手数料	保険料	租税公課	法人税等	損益

1. 野比商店に商品 ¥ 600,000 を売り上げ、代金は消費税 (8%) を含めて掛けとした。なお、消費税は税抜方式で記帳処理している。
2. 給料から差し引いて預かっていた社会保険料の従業員負担額 (健康保険料 ¥ 200,000 および厚生年金保険料 ¥ 300,000) と、会社負担額 (従業員負担額と同額) をまとめて現金で納付した。
3. 会社の設立にあたり、株式 1,000 株を 1 株あたり ¥ 800 の価額で発行し、全額の払込みを受け、払込金は普通預金とした。なお、発行価額の全額を資本金とする。
4. 株主総会において、繰越利益剰余金を以下のように処分することが承認された。
株主配当金 : ¥ 300,000
利益準備金積立額 : ¥ 30,000
5. 決算において、税引前当期純利益 ¥ 1,000,000 の 40% を法人税等に計上した。なお、当社はすでに ¥ 150,000 を中間納付しており、仮払法人税等で処理している。

第2問 (10点)

以下の【資料】にもとづいて各勘定に必要な記入を行ったうえで、①～⑤に当てはまる適切な勘定科目または金額を答えなさい。なお、当期中の仕入・仕入戻し・売上・売上戻りは全部一括して記帳し、売上原価は仕入勘定で計算すること。

【資料】

- (1) 期首商品棚卸高 : ￥ 190,000
- (2) 総仕入高 : ￥ 2,450,000
- (3) 仕入戻し : ￥ 30,000
- (4) 純売上高 : ￥ 3,410,000
- (5) 売上戻り : ￥ 40,000
- (6) 期末商品棚卸高 : ￥ 240,000

		仕 入	
	総仕入高 ()		仕入戻し ()
3/31 ()	()	3/31 ()	()
		〃 (①)	()
	<u>()</u>		<u>()</u>

		売 上	
	売上戻り ()		総売上高 ()
3/31 ()	(②)		()
	<u>()</u>		<u>()</u>

		繰 越 商 品	
4/1	前期繰越 190,000	3/31 ()	()
3/31 ()	()	〃 (③)	()
	<u>()</u>		<u>()</u>

		損 益	
3/31	仕 入 ()	3/31	売 上 ()
〃	給 料 480,000		
〃	水道光熱費 120,000		
〃	支払家賃 360,000		
〃 (④)	()		
	<u>()</u>		<u>()</u>

		繰越利益剰余金	
3/31	次期繰越 ()	4/1	前期繰越 70,000
		3/31 ()	(⑤)
	<u>()</u>		<u>()</u>

第3問 (30点)

次の(A)と(B)の資料にもとづいて、答案用紙の×1年6月30日の合計残高試算表を作成しなさい。

(A) ×1年6月25日時点の合計試算表

合 計 試 算 表		
×1年6月25日		
借 方	勘 定 科 目	貸 方
981,000	現 金	399,000
3,517,000	普通預金 ABC 銀行	1,452,000
3,483,000	普通預金 XYZ 銀行	1,529,500
2,785,000	売 掛 金	1,734,000
1,612,000	電 子 記 録 債 権	886,000
622,000	繰 越 商 品	
720,000	備 品	
1,184,000	買 掛 金	1,857,000
505,000	電 子 記 録 債 務	1,084,000
90,000	所 得 税 預 り 金	90,000
	未 払 配 当 金	100,000
	備品減価償却累計額	260,000
	資 本 金	4,000,000
	利 益 準 備 金	10,000
	繰越利益剰余金	890,000
24,000	売 上	7,680,000
5,088,000	仕 入	12,000
1,000,000	給 料	
1,500	支 払 手 数 料	
20,000	減 価 償 却 費	
51,000	水 道 光 熱 費	
300,000	支 払 家 賃	
21,983,500		21,983,500

(B) ×1年6月26日から30日までの取引

- 26日 ① 先日行われた株主総会で決議された株主配当金 ¥ 100,000 を普通預金 ABC 銀行口座から支払った。
 ② 支払家賃 ¥ 150,000 と水道光熱費 ¥ 24,000 が普通預金 ABC 銀行口座から引き落とされた。
 ③ 給料 ¥ 500,000 について、所得税の源泉徴収額 ¥ 30,000 を差し引いた残額を普通預金 ABC 銀行口座から支払った。
- 27日 ① 売掛金 ¥ 160,000 が普通預金 XYZ 銀行口座に入金された。
 ② 買掛金 ¥ 260,000 について、電子記録債務の発生記録を行った。
- 28日 ① 普通預金 XYZ 銀行口座から普通預金 ABC 銀行口座へ ¥ 600,000 を振り込んで移動した。なお、振込手数料として ¥ 500 が引き落とされた。
 ② 売掛金 ¥ 180,000 について、得意先の承諾を得て、電子記録債権の発生記録を行った。
- 29日 ① 電子記録債務 ¥ 350,000 を普通預金 XYZ 銀行口座から支払った。
 ② 商品 ¥ 70,000 を仕入れ、代金は掛けとした。なお、引取運賃 ¥ 3,000 は現金で支払った。
 ③ 商品 ¥ 210,000 を売り上げ、代金のうち ¥ 120,000 は自治体が発行した商品券を受け取り、残額は掛けとした。
- 30日 ① 電子記録債権 ¥ 280,000 が普通預金 XYZ 銀行口座に入金された。
 ② 備品について、当月分の減価償却費 ¥ 10,000 を計上した。

第4問 (10点)

次の(①)から(⑩)に当てはまる最も適当な語句を下記の【語群】から選び、答案用紙に記入しなさい。

- 必ず作成しなければならない(①)と(②)は主要簿と呼ばれる。一方、必要に応じて作成される(③)と(④)は補助簿と呼ばれる。
(③)は特定の勘定について項目別に記録する帳簿で、商品有高帳や(⑤)などがある。(④)は特定の取引の明細を記録する帳簿で、小口現金出納帳や仕入帳などがある。
- 商品を仕入れたさいに発生する費用を仕入諸掛りといい、当社が負担すべき諸掛りを支払った場合は(⑥)に含めて処理し、仕入先が負担すべき諸掛りを立て替えて支払った場合は(⑦)を計上して処理するか、(⑧)から差し引いて処理する。
一方、商品を売り上げたさいに発生する費用を売上諸掛りといい、当社が負担すべき諸掛りを支払った場合は(⑨)を計上して処理し、得意先が負担すべき諸掛りを立て替えて支払った場合は(⑦)を計上して処理するか、(⑩)に含めて処理する。

【語群】

総勘定元帳	現金出納帳	補助元帳	固定資産台帳	仕訳帳
補助記入帳	受取手形記入帳	売掛金	仮払金	立替金
買掛金	預り金	売上	仕入	発送費

第5問 (30点)

会計期間を4月1日から3月31日までとする剛田ジャイアンツ株式会社の、×1年度末における次の【決算整理事項等】にもとづいて、答案用紙の精算表を完成しなさい。

【決算整理事項等】

- 現金過不足の原因を改めて調査した結果、広告宣伝費 ¥ 3,200 と受取手数料 ¥ 6,800 が未記帳であることが判明した。なお、残りの金額は原因が不明のため適切に処理する。
- 当座預金の貸方残高全額を借入金に振り替える。なお、取引銀行とは借越限度額を ¥ 500,000 とする当座借越契約を結んでいる。
- 得意先骨川商店が倒産し、前期に発生した売掛金 ¥ 8,500 および当期に発生した売掛金 ¥ 4,900 が回収不能となったが、この取引が未記帳であることが判明した。
- 決算日の前日に掛けで販売した商品に品違いがあり、売価 ¥ 12,000 (原価 ¥ 10,000) の商品が返品されたが、この取引が未記帳であることが判明した。
- 期末商品棚卸高は ¥ 200,000 である。なお、この期末商品棚卸高には上記の返品分は含まれていない。売上原価は「売上原価」の行で計算すること。
- 売掛金の期末残高に対して、差額補充法により3%の貸倒引当金を設定する。
- 建物(耐用年数は30年、残存価額はゼロ)および備品(耐用年数は4年、残存価額はゼロ)について定額法により減価償却費を計上する。
- 購入時に費用処理した切手の未使用分が ¥ 8,200、収入印紙の未使用分が ¥ 6,000 あるため、貯蔵品に振り替える。
- 給料の未払分が ¥ 49,000 ある。
- 保険料は所有している建物に対するもので、毎年同じ金額を10月1日に向こう1年分支払っている。
- 受取家賃は所有している建物の一部の賃貸によるもので、年に6回、偶数月の月末にむこう2か月分として ¥ 18,000 を受け取っている。